

農業後継者育成基金事業

令和5年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立種子島高等学校

1 目的

本校の入学生の多くは、第2種兼業農家と非農家の子弟であるため、農業学習・農業体験を行うことは、農業への興味・関心を高めていくために必要なことである。

また、地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習は、教育効果が高いと考える。生徒がより地域農業への見聞を広め、就農意欲を醸成することを目的に実施する。

2 実施状況

(1) 西之表市街角インフォメーションセンタークリスマスマルシェ

生徒たちが栽培・加工した季節の草花や加工品など販売会を行った。商品の準備や接客を行い、地域の方々との交流を行った。日頃学習した成果を披露し、草花の育て方や加工品の説明など、生徒自らが教師役としてお客様に親切丁寧に接することができた。

販売会等を通じて地域の方々とのコミュニケーションを図る学習の場となった。



(2) 1年生島内視察研修

6次産業化を実践されている農家や肉用牛経営、サトウキビの生産農家、ヒサカキ栽培農家の4件を見学した。

島内で期待をされる生産者の農業経営を肌身で感じ学習できたことは生徒たちにとって大変貴重な体験であった。

今後も島内の生産者との連携を密にしていきたいと考える。

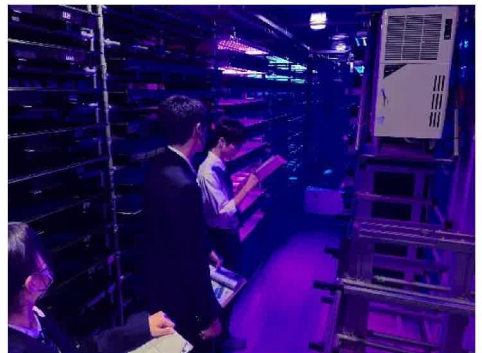


(3) 2年生島外視察研修

将来、農業大学校への進学や園芸関連の就職を希望する生徒への学習の機会として、南さつま市の小田畜産と日置市の株式会社エルム栽培農場の見学を行った。

小田畜産では、子牛の仕入れから肥育・加工・販売までの6次産業化に取り組んでおり、生徒からは、設備投資などについて質問をするなど、興味を示していた。

株式会社エルムの栽培農場は、自然災害等に左右されない農場づくりを考え、また、観光農業としてのイチゴ狩りなど、幅広い経営を学ぶことができた。



3 今後の課題、取組

種子島の農業を支える若い人材の育成を考える上で、本事業は非常に大事な取組である。コロナ禍で中断されていた小・中学校への出前授業や島内各地での販売会等が再開でき、生徒にとって充実した学習の機会が戻りつつある。

今後も地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習などの充実を図り、地域の農業後継者育成のために尽力していきたい。

※この用紙については協会のホームページで紹介します。

A4版1枚（様式はといません）におさめてメール(kagokikin@ka-nosinkyo.net)で報告ください。

なお、事業の実績報告書等は別途提出となります。